



N039 発達障がいのある子どもへの理解と対応

— 教育センター公開講座から part5 —

前回までは、個別の事例をもとにその対応について考えてきましたが、今回は「学級での対応」についてお伝えします。

《支援をする時の基本的な心構え》

- ・障がいを治すのではなく、状況、関係性を修復すること。
- ・子ども一人ひとりに近づき、心に触れ、心を認め、育ちを信じること。
- ・自分にある力を使って、「今をともに生き、共有する世界を立ち上げる」ことが肯定されるようにすること。
- ・自分自身が役立つ存在であることを実感できるようにすること。



学級での対応

競争ではなく、協力を教える。

- ・批判を控え、励まし、やる気を引き出す。
- ・クラス全体に、「いろいろな子ども」がいることの自然さを伝える。
- ・親切と協力を大切に、仲間同士の支え合いを築く。
- ・各児童生徒の長所を把握しておく。
- ・集団の中で「恥ずかしい」経験をしないように配慮する。



社会への責任に気づかせる。 市民としての自覚を促す。

- ・意図的にクラスに「自由な雰囲気」と「自主性」を創るために必要な「枠」を設ける。
- ・枠は壊れたり、不安定であったりしてはいけない。
- ・教師は常に子どもを信頼し、しかし、絶対の安全を提示する。(いざとなったら頼りになる)
- ・間違った行動は、叱責・指摘せず、正しい行動を教える。
- ・よい行動はすぐその場で認め、褒める。
- ・教員は子どもと口論せず、冷静に対応する。
- ・重要なのは、ルールを守ることと、自分の思いを相手に伝えることであることを教える。
- ・自分から上手にSOSが出せるように配慮する。

【留意点】

- ・問題に優先順位をつけて、「やれることからやる」「簡単なことから片付ける」という鉄則に従う。
- ・大きな成果が得られないからといって、小さな成果を諦めない。
- ・子どもが理解できるレベルを評価し、分かりやすい伝え方を工夫することが必須である。
 - 言葉は？態度は？表情は？状況の理解は？
 - 絵カード、サイン、決まり文句